

平成30年度新規研究課題

課題番号 (9)

課題名：スマートマルドリを活用したカンキツの少水・低コスト型マルドリシステムの構築

研究期間：平成30～32年度

研究担当：柑きつ振興センター

1 研究の背景

周防大島町を中心とする本県カンキツ産地の維持には、基盤整備や園地集積による経営規模拡大が必要である。園地全体の収量・品質の高位安定化を可能とする技術として、(国研)農研機構西日本農業研究センターが開発したマルドリシステムの導入が進められている。

しかし、この技術は水栓の管理等が手動である等アナログ的であるため、さらなる省力・低コスト化と水源が乏しい地域に適応できる技術が求められている。

2 目的

少水・低コスト型のマルドリ栽培管理基準を作成し、本県産地の大規模経営体に適したスマートマルドリ (IoT対応型のマルドリシステム) 技術を構築する。

3 研究内容

- ・品種別に最適な灌水量や施肥量・時期を把握し、マルドリシステムの施用基準を作成する
- ・コスト低減を図るため、少水型チューブや安価な液肥の実用化を検証する。
- ・テレモニタリング (園地情報の見える化) やテレマネジメント (遠隔操作) 機能をマルドリシステムに組み込み、スマートマルドリシステムを構築する。

4 研究のポイント

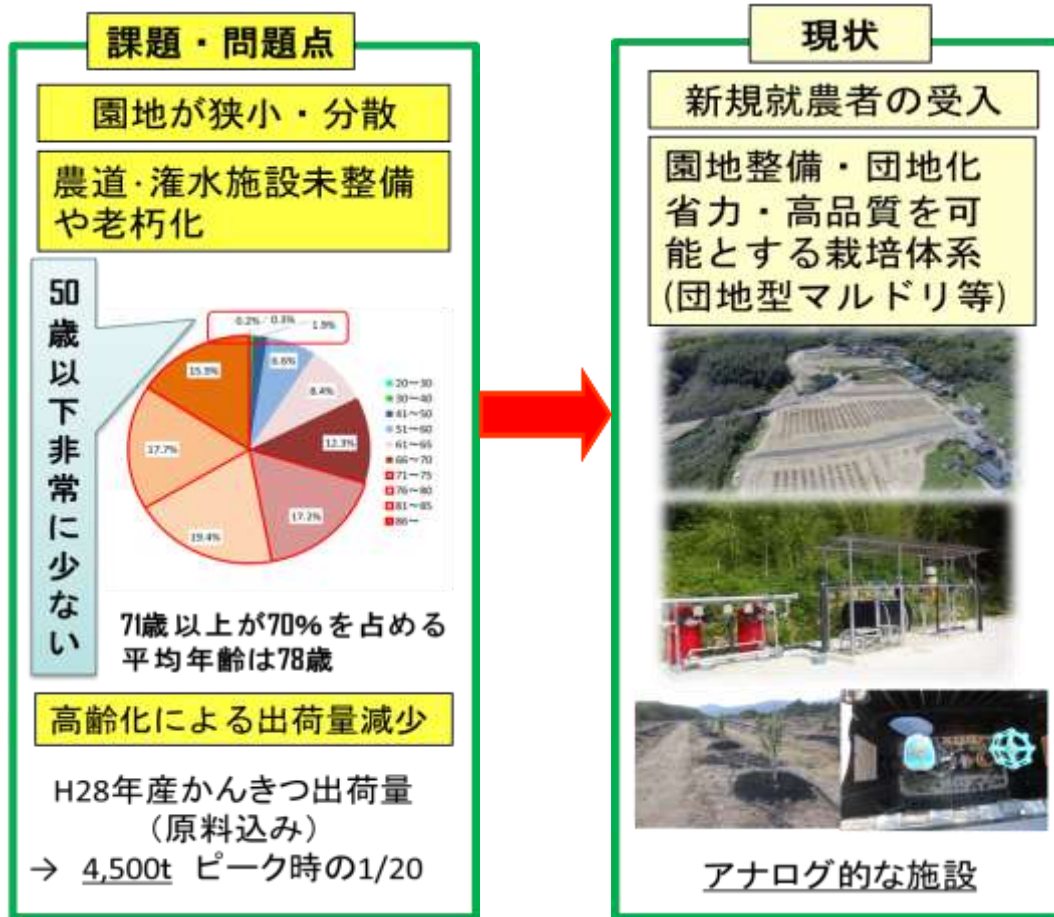
- ・少水・低コストに対応できる本県産地に適したスマートマルドリシステムを構築できる。
- ・新規就農者等、担い手の規模拡大に貢献できる。

※マルドリ方式

カンキツのシートマルチ栽培において、ドリップチューブで点滴かん水する栽培方法。「マルドリ」とはマルチの「マル」とドリップの「ドリ」を合成したものである。液肥混入器を組み合わせることで、かん水と同時に施肥ができ、省力化かつ効果的な時期の施用、施肥量軽減が可能となる。

スマートマルドリを活用したカンキツの少水・低コスト型 マルドリシステムの構築 (H30-H32)

柑きつ振興センター



スマートマルドリシステムの確立

ICTを活用した効率的な経営

規模拡大・法人化による産地維持

